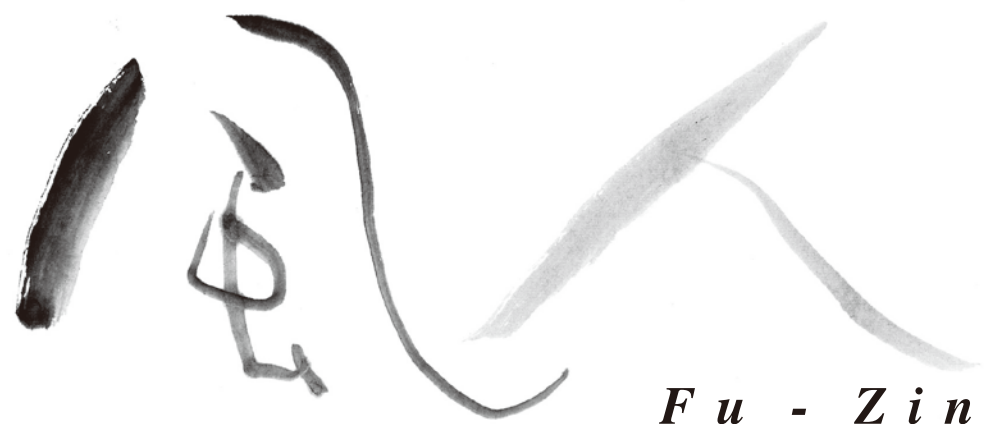




第57号
令和7年11月発行



報告

第22回 追い山笠コース探訪

第24回 楽文コンテスト

◎主催 NPO特定非営利活動法人
博多の風

◎協力 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)、日本電気(株)

◎協賛 九州電力(株)、西部ガスホールディングス(株)、西日本鉄道(株)、(一財)福岡県交通安全協会

◎後援 福岡市、福岡市教育委員会、(一社)九州経済連合会 [順不同]

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
<https://hakanokaze.jp>

令和4年(2022)

- 6月 第19回 追い山笠コース探訪 開催
- 第21回 楽文コンテスト 開催
- 12月 第21回 楽文コンテスト表彰式 開催

令和5年(2023)

- 5月 第41回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:永田 隆憲(一般財団法人省エネルギーセンター九州支部事務局長)
- 6月 第20回 追い山笠コース探訪 開催
- 第22回 楽文コンテスト 開催
- 12月 第22回 楽文コンテスト表彰式 開催

令和6年(2024)

- 5月 第42回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:戸谷 弘一(福岡県交通安全協会専務理事)
- 6月 第21回 追い山笠コース探訪 開催
- 第23回 楽文コンテスト 開催
- 12月 第23回 楽文コンテスト表彰式 開催

令和7年(2025)

- 6月 第22回 追い山笠コース探訪 開催
- 第24回 楽文コンテスト 開催

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
 - ・博多の風フォーラム開催
 - ・広報誌・HP発行
 - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
 - ・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
 - ・博多の町親交
(清掃活動・クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
 - ・書籍出版
 - ・博多祇園山笠の振興
 - ・追い山笠コース探訪開催
- 協力事業
 - ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL <https://hakanokaze.jp>

題字:新井光守



発表！ 第24回楽文コンテスト 入賞者

博多祇園山笠振興会賞					毎日新聞社賞				
・「変わる」	草ヶ江小学校	4年	井手 愛梨		・「私のきょうだい」	東住吉小学校	3年	濱田 真央	
・「私の妹」	博多小学校	5年	森山 心桜		・「私の生きる街」	宮竹中学校	1年	古賀 葉月	
・「私が大好きなこと」	野間中学校	2年	藤 結彩		・「嫌いだった大好きなこと」	老司中学校	2年	北村 薫	
・「バスケットボール」	老司中学校	3年	村上 陽大		・「ヴァイオリンは私の一生の宝物」	香椎第3中学校	2年	松田 珠々	
・「私の好きなこと」	志賀中学校	3年	武 柚花		・「努力は反比例しない」	志賀中学校	3年	原賀 由愛	

RKB毎日放送賞					NEC賞				
・「ぼくが大好きな家ぞく」	博多小学校	3年	大庭 永大		・「わたしの大きな家ぞく」	東光小学校	2年	牧瀬 結菜	
・「7才の肉食きょうりゅう梨々花」	東光小学校	5年	清見 一翔		・「君が大好きなこと」	和白丘中学校	1年	櫻井 朝日	
・「サッカーが教えてくれたこと」	香椎第1中学校	1年	國吉 有志		・「私の好きなこと」	志賀中学校	2年	阿野 悠花	
・「君が大好きなこと」	長尾中学校	2年	翁 雨菲		・「大好きなこと」	老司中学校	3年	古賀 菜乃花	
・「あの夏のお祭り」	老司中学校	3年	穴井 小晴		・「青春ソフトテニス」	志賀中学校	3年	森 悠	

NPO博多の風賞				
・「だいすきなこと」	板付小学校	1年	北山 湊士	
・「私の夢」	東光小学校	5年	渡辺 美月	
・「私」	長尾中学校	2年	馬場 美優	
・「私の好きな方言」	老司中学校	3年	川口 英恵	
・「好きなことを将来の自分へ」	志賀中学校	3年	阿武 岳杜	

博多祇園山笠振興会賞

変わる

●草ヶ江小学校4年

井手 愛梨

水泳と体そうを習い始めて、もうすぐ一年がとうとうとしていきます。私は今日、水泳でクロールとせ泳ぎを二十五メートル泳ぐことができました。

一年前の私は、水に顔もつけられず、とび箱やマット、鉄ぼうも苦手でした。「できるようにになりたい」「自分を変えたい」と思ってた習い事を始めました。入った時、周りの子たちは私より年下の子ばかり。でも私より上手でした。はるかしたとくやしさが出て、「やっぱり習うのやめようかな」と思ったこともありましたが、ただコーチが「この前よりとっても上手になってるよ！」とたくさんさんの声をかけてくれたり、周りの子たちとも仲良くなったりして、

習い事に通うことが楽しくなりました。そして「早くできるようにになりたい！」と思うことが増えました。

できるようになるために、私はコーチの話をしっかりと聞くこと、アドバイスをすなおに受け入れてやってみることを大切にしました。家でもできる練習は毎日して、市民プールにも通ったり、放課後学校の鉄ぼうも使ったりしました。休みの日学校でさか上りの練習をしていると、たんにんの先生が通りかかって「しせいを覚えてみてー！」と、声をかけてくれました。そしてつぎのしゅん間。はじめてさか上がりが成功しました！先生もよろこんでくれて、私も私の家族も大よろこびでした。次の習い事の日、コーチにさか上がりを見せました。コーチもよろこんでくれて「もつとがんばることで、またできる！」と思えました。

四年生になって、私の中で体育は少しずつ苦手なものから、好きなものにかわって

「追い山笠コース探訪」は、博多祇園山笠に実際に参加している当NPO法人のメンバーとともに、櫛田神社から須崎間屋街の廻り止めまで、約5キロの追い山笠コースを歩いて巡る恒例の人気イベントです。

開催当日の午前9時、冷泉公園に続々と参加者が集まりました。理事長・副理事長の挨拶に続き、担当世話人から注意事項が伝えられると、いよいよ出発です。長法被に袖を通した「博多の風」の語り部たちが先頭に立ち、8班に分かれた参加者が、初夏のやわらかな陽射しの中をゆつくりと歩き始めました。

コースは、追い山笠の出発地点である櫛田神社の山留めからスタートします。「5秒前！」のアナウンス、そして響き渡る太鼓の音―その瞬間を思い浮かべるだけで胸が高鳴ります。境内に立つ清道旗や、櫛田入りの緊張と興奮を語る語り部の話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。道中では、2本目・3本目の清道旗が立つ東長寺や承天寺などを巡り、山笠の迫力を間近に感じられるポイントを紹介。博多べいをはじめ、遣隋使や遣唐使の時代から長い歴史を刻む神社仏閣の物語にも触れながら、少しずつ変わりゆく博多のまちを歩くたびに、新たな発見があります。約2時間の行程を終える頃には、参加者の表情には満足と感動が浮かんでいました。博多の夏の息吹、山笠を支える人々の情熱、そしてまち全体で感じられる貴重なひとときです。

まだご参加いただいたことのない方も、ぜひ来年はこの熱気を体感してください。きつと、博多というまちの新たな魅力に出会えることでしょう。

報告 第22回追い山笠コース探訪

令和7年6月1日、第22回「追い山笠コース探訪」を開催しました。今年は福岡市内外から125人（子供10人含む）の方にご参加いただき、約5キロの追い山笠コースを長法被に身を包んだ博多の風の語り部と一緒に練り歩きました。



追い山笠の出発点 櫛田神社の山留め



冷泉公園にて大庭理事長による挨拶



山笠発祥の地 承天寺



櫛田神社の境内にある清道

きました。一学期の体育の時間では、クラスのお手本になったこともありまし。それに、できないという友達がいた時、わたしはその気持ち

がとても分かって、コーチのような声かけやアドバイス、サポートができるようになりまし。そして水泳の授業では、はじめて真ん中のクラスになりました。友達から、「えっ。いつの間に泳げるようになったの？」とおどろかれて、少しうれしい気持ちになりました。たんだの先生からも「フォームがきれいだね！」と言われて、コーチの話をしっかり聞いてきてよかったです。

この一年間で、私はたくさん変わることができました。できなかったことができるようになると、自分もまわりもうれしいこと。苦手なことも、毎日のコツコツとしたとりくみで好きに変わることがあるということ、たくさん

手なことが出てくると思います。でもにげずにしっかり向き合っていこう、私ならできる、そう信じてがんばります。

●博多小学校5年	モリヤマ 森山 ソラ 心桜	私には、九つ離れた妹がいる。母のお腹の中にいる時から病院についていつてエコーを見せてもらったりした。妹ができるのが楽しみで楽しみに早く会いたくて学校の先生や友達にも自慢した。病院についていくと先生が必ず私に「お姉ちゃん」って言うてくれて分かりやすく説明してくれる。それがなんだか嬉しいようなくすぐったいような不思議な気持ちになった。エコーで見た妹を可愛いと思っていたけど、産まれた妹を初めて見た時の衝撃を私は一生忘れないと思う。
----------	----------------------------	--

はしわくちやで想像していた赤ちゃんじゃなくて第一印象は「怖い」しかなかった。なのにお母さんは「可愛い」って言うていて私は少しとまどってしまった。時間が少し経ち服を着た妹を見せてもらったら普通の赤ちゃんになったいて、とっても可愛かった。「あ、私お姉ちゃんになったんだ。」って実感した。小さくてふにやふにやで私が守ってあげなきゃと思った。ミルクをあげたり、お風呂を手伝ったり、妹が可愛くてお世話が苦じゃなかった。離乳食が始まると、おいしいポーズを覚えた。そのポーズを見るとおいしいものをたくさん教えたくなった。歩けるようになった妹を見ると心配でどこにでもついていきたくなる。最近、二才になり、しゃべれるようになった。きてさらに可愛くなった。私のことを「ねえね」と呼ぶようになったし、「大しゅき」って言うるようになった。嫌なことをされても「ねえね、

私が大好きなこと

●野間中学校2年

トウ 藤 ユウア 結彩	私は博多祇園山笠が大好きだ。七月になると、心も体もウキウキする。なぜなら、博多の夏を代表するこのお祭り
--------------------------	---

をつけるチャンスだと思い、家で必死に練習しました。そのときは試合でスタメンで出るという目標があったのでそこに向けて何をしたらいいかなど考え、自分に足りないところを重点的に練習しました。小学5年生になると自分

私の好きなこと

●志賀中学校3年

タケ 武 ユズカ 柚花	私は剣道をすることも、試合を見ることがとても好きです。小学生のときに弟と一緒に見学に行ったことが始めたきっかけで、最初は何もわからず不安でしたが、稽古を重ねていくうちに楽しくなり、今では生活の一部になっています。
--------------------------	--

れた。でも、そのとき「大丈夫、次はもっと勢いよくやってみる！」と声をかけてくれた言葉がすごく嬉しくて、もっと頑張ろうと思えた。あのときから、山笠は私にとって特別なものになった。中学生になった今は、昇くことはできないけれど、賄いの手伝いをしている。朝早くから大量のご飯を炊き、味噌汁をよそって昇き手の人たちに渡す。汗びっしょりで戻ってくる兄ちゃんたちが「ありがとう！」と笑顔で言うてくれると、疲れなんて吹き飛ぶ。炊き立てのご飯の湯気、味噌汁の香り、みんなで囲む食卓。その中で響く笑い声や太鼓の音。裏方として祭りを支えることの大切さを知り、自分にもできる役割があると感じた瞬間だった。そしてクライマックスの追い山。夜明け前、まだ暗い空を見上げると、遠くから太鼓の音が響いてくる。その音に合わせて、私の心臓もドキドキと早くなる。「オイサ！オイサ！」という力強い掛け

バスケットボール

●老司中学校3年

ムラカミ
村上 ハルト
陽大

バスケットボールは自分にとっては他のスポーツに比べても一番好きです。ぼくは生まれてきた頃から両親がバスケットボールをしており、自分の記憶がまだない頃からボールをリングに入れるということをやっていました。小学一年生の頃、まだ他のスポーツにも興味があり、いろいろなボールでいろいろなことを遊んでいました。例えばボールをけったり、ときには野球のように投げていました。しかし、一番バスケットボールに興味があつたので、小学一年生の冬に本格的にバスケットボールを習い始めました。そのときはまだ何もわからず、先輩にずっと助けてもらいました。小学三年生の頃、世界中で新型コロナウイルスが大流行し、皆とはバスケができなくなっていました。そのときが皆と差

が始まるからだ。博多祇園山笠は七百年以上続く伝統を持つ祭りなので、男たちが「昇き山」と呼ばれる大きな山を担ぎ、「オイサ!!」の掛け声とともに博多の街をかけぬける。重さは一トンを超えると聞いたことがある。それを全身で支えながら走る姿は本当に迫力があって、見ているだけで胸が熱くなる。沿道からは水が勢いよくかけられ、見物客の声援が響き渡る。博多の街全体が熱気に包まれる瞬間だ。私の家族は代々、恵比須流で山笠に参加している。父も祖父もずっとこの祭りを支えてきた。だから、私にとつ

て山笠は物心ついたときから身近な存在だった。小さな頃は、父に手を引かれて山笠の周りを歩き、はじめて水法被を着た時は嬉しくて、鏡の前で何度もポーズをとったのを覚えている。水をかける係になったときはバケツの水を持ち上げるのに必死で、思いきりかけたつもりでも全然届かなくて、兄ちゃんたちに笑わ

年生では中総体で県大会ベスト四までいったけど負けたのが悔しく、また練習をしました。中学三年生になってからも練習を続けました。自分を追い込み、限界まで練習をしました。この夏休みも暑かったけど、自分がチームを勝たせるために練習しました。ぼくは大好きなバスケットボールをがんばりたいと思います。

毎日新聞社賞

私のきょうだい

●東住吉小学校3年

濱田 真央

私には、六さいの妹と一さいの弟がいます。弟は、去年の七月に生まれました。名前は家ぞくみんなで考えました。何でも話し合ってたくさんなやみました。さいしょは楽しかったけど、なかなか決まらずに少しつかれたりもしました。区やく所に名前をいしゅつしないといけない日の前日によく決まりました。名前を決めるのは、こんなにたいへんなんだと思ったけど、一生けんめい考えるからだと分かりました。家族で考えて決めた名前が大きいので、今ではこの名前がい考えられません。これからたくさんこの名前を呼んであげたいです。生まれてから一ヶ月がたったころ、弟はよくわらうよう

一本が決まった時の音と声、動きのキレには毎回感動します。私もいつかあんなふうに堂々と戦えるようになりたいと思います。技やタイミングを観察しています。試合を見ることで自分の中に新しい目標がうまれたり、やる気が高まります。剣道を始めてから、私は少しずつ自分に自信が持てるようになってきました。剣道のおかげで、学校生活でも前向きに物事にとりくめるようになってきました。

礼儀や心の持ち方をととても大切にします。練習のはじめと終わりにには、「黙想」をして気持ちを整え、相手に対しても常に感謝の気持ちを忘れません。先生が、「剣道は相手と戦うだけでなく、自分自身と向き合うものだ。」

と言っていたのが印象に残っています。相手に勝つことよりも、自分の心を強くしていくことが本当の目的だと知り、剣道の奥深さを感じました。

私は稽古で何度も同じ動きを繰り返すことが好きです。一見単調に見えても、その中で少しずつ自分が成長していくのを感じられるからです。うまく一本をとれたときや、先生にほめてもらえたときは、本当にうれしくて、もつとがんばろうという気持ちになります。

剣道は私にとってただのスポーツではなく、心と体を育てる大切な存在です。これからも剣道を大切にして、自分の成長につなげていきたいと思っています。

また、剣道の試合を見ることも私の楽しみの一つです。大会で先輩やちがう学校の友達との試合を見ると、スピードや気迫に圧倒されます。特に、

さみしいような顔で泣いていました。それを見て、お母さんはだきしめていました。今では、妹も弟のことをかわいがり、いっしょに遊んでいます。私の大事なきょうだい。これからますます大好きです。なかよくしようね。

さみしいような顔で泣いていました。それを見て、お母さんはだきしめていました。今では、妹も弟のことをかわいがり、いっしょに遊んでいます。私の大事なきょうだい。これからますます大好きです。なかよくしようね。

さみしいような顔で泣いていました。それを見て、お母さんはだきしめていました。今では、妹も弟のことをかわいがり、いっしょに遊んでいます。私の大事なきょうだい。これからますます大好きです。なかよくしようね。

私の生きる街

●宮竹中学校1年

古賀 葉月

お盆に、母の実家がある熊本に帰省した時のことである。一頻り祖父母に歓迎されもてなしされた後、暇を持て余した私は誰もいない座敷の家探し、もとい探検を始めた。押し入れやふすまを開けると、色々な昔の道具や古いアルバムが出てきて、それをぼんやり眺めていた。

アルバムの中の一枚に曾祖母が小六の頃の家族写真があった。

「ひいおばあちゃんが今の私よ

もち。どれも大切な思い出だ。

博多っ子の魂とさえ言われる山笠祭。八十年前に、それを中止せざるを得ない程の大空襲があったとは思えない、今の福岡の活気のある生き生きとした姿。

大好きな家族、大好きな友達、大好きな場所。たくさんの好きが詰まったこの街。この「好き。」がずっと続いていくよう、大切にできるような強くなりたい。

この大好きな街の全てを、過去に築き上げてくれた人、現在支えている人、そして未来を作っていく人。すべての人々に感謝の心を忘れずに。

嫌いだっただ好きなこと

●老司中学校2年

北村 薫

私の大好きなことは、仲間と何かを成しとげることです。私は今、吹奏楽部に所属しています。その活動の中で、

になりました。三ヶ月頃にねがえりを始め、五ヶ月でずりばい、六ヶ月でハイハイができるようになりました。私が学校から帰ってくると、にこにしながらげんかんまでハイハイでやって来てくれて、その笑顔を見ると、とてもうれしくなりました。今ではひとり歩きも上手になりました。ごはんももりもり食べるし、バイバイもできます。

生まれてから一年間。生まれたばかりのころは泣いてねるだけだった赤ちゃんが、こんなにいろいろなことができるようになって、私にはびっくりしています。昨日までできなかったことが、今日とつぜんできるようになったりして、それを見て、家ぞくで大よろこびして盛り上がることが楽しいです。

お父さんとお母さんは、それを見て、私も早くからねがえりをはじめたとか、ハイハイの仕方がおもしろかったとか、私の赤ちゃんのころの話を楽しくそうに話してくれます。

仲間と何かを成しとげることが大好きになりました。ですが、これは始めから好きだった訳ではありません。私はとにかく人にまかせることが好きではなく、一人でやらなければ負けた気がする、と思ってしまいうほどで、今では、大好きと言えることでも、吹奏楽部に入部する前までは、嫌いなことでした。そんな私がなぜ仲間と何かを成しとげることが大好きになったのか考えたとき、二つのことが思いかびました。

一つは、吹奏楽部の特徴です。絶対に一人じゃできない、というのが吹奏楽部だということも思えます。音楽が好きで入部をしました。始めは仲間と一緒に奏でていることに、あまり目を向けていませんでした。ですが、パートで音を合わせる、部員全員で音を合わせることをくり返すうちに、心も合せているのだと気づくことができたと思います。誰一人見捨てられることなく、一人一人、一音一音が大切にされていて、とてもすてきだと思いはじめました。

二つ目は、仲間との関わりです。日をかさねるうちに、仲が深まっていき、その仲間達と演奏をし、ステージに立ち、練習をし、私の中で自然と何かをまかせられるような関係になっていきました。そんな仲間たちと、吹奏楽コンクールに向けて練習が本格的になったとき、自分が仲間と協力することに楽しさを感じているのだと実感できました。コンクールの結果はすぐ残念でしたが、この仲間とここまで活動し、演奏し、協力できたことで何か成しとげたものがあるのではないかなと思いました。

嫌いだっただ好きなこと、吹奏楽部として演奏することで、すてきなもののだと気がつくことができました。三年生の先輩が卒部される時には、みんな涙を流して感謝を伝えてくれました。もう一度、一緒に演奏したいと思うほど、これまで良い演奏を仲間

私ができるようになるたびに、今と同じようによろこんでくれていたのかなと思うと、私もうれしくなります。

この夏休み、私は弟といっしょにいろんなことをしました。よぼうせつしゅについて行ったり公民館に行ったりもしました。その時もお母さんは、私はよぼうせつしゅであり泣かなかったとか、公民館ではどんなおもちゃが好きだったとか話してくれました。

弟は、これからたくさんのことができるようになっていくと思います。私は、そばでそれを見て、しっかりと覚えていきたいです。そして、お母さんが私に教えてくれたように、私も弟がもう少し大きくなったら、こんな風だったと教えてあげたいです。

それから、六さいの妹。妹は、弟が生まれるまで末っ子だったけど、弟が生まれてからはじめてお姉ちゃんになりました。お母さんのおなかの中に赤ちゃんがいると聞いたとき、妹は少しうれいような

が大切にされていて、とてもすてきだと思いはじめました。二つ目は、仲間との関わりです。日をかさねるうちに、仲が深まっていき、その仲間達と演奏をし、ステージに立ち、練習をし、私の中で自然と何かをまかせられるような関係になっていきました。そんな仲間たちと、吹奏楽コンクールに向けて練習が本格的になったとき、自分が仲間と協力することに楽しさを感じているのだと実感できました。コンクールの結果はすぐ残念でしたが、この仲間とここまで活動し、演奏し、協力できたことで何か成しとげたものがあるのではないかなと思いました。

嫌いだっただ好きなこと、吹奏楽部として演奏することで、すてきなもののだと気がつくことができました。三年生の先輩が卒部される時には、みんな涙を流して感謝を伝えてくれました。もう一度、一緒に演奏したいと思うほど、これまで良い演奏を仲間

嫌いだっただ好きなこと、吹奏楽部として演奏することで、すてきなもののだと気がつくことができました。三年生の先輩が卒部される時には、みんな涙を流して感謝を伝えてくれました。もう一度、一緒に演奏したいと思うほど、これまで良い演奏を仲間

としてこれれたことを感じて、とてもうれしかったです。吹奏楽部に入ってからのことではなく、小学校からの運動会や、様々な学校行事をかさね、好きになれたものだと思います。でも、大好きなことだと気づかせてくれたのは、吹奏楽です。

仲間と協力し、助け合い、成しとげることはすてきなことで、これからもたくさんこの考えが役に立つと思いません。これからも、一人でできないことは、仲間と協力して、新しい経験をとくさんつんでいきたいです。

ヴァイオリンは私の一生の宝物

●香椎第3中学校2年

マツダ
松田 珠々

ヴァイオリンを始めて九年。あつという間の九年間だった私が始めたときからヴァイオリンが大好きで自分の宝物であった。理由はやは

り会場いっぱいヴァイオリンの音がバーンと響き渡り、そこに自分の感情を音に乗せて表現することができるところが大変魅力的だからだ。そして、ヴァイオリンを見るたびに良い楽器に出会えたなど幸福を感じられるのも最高だ。

その一方、マイナスの感情もたくさんある。小学生の時、友達から放課後に遊ばないかと声をかけてもらっていたけれどヴァイオリンの練習があるからと断っていると次第に誘われなくなり心が傷ついた。なぜヴァイオリンの練習をしているのだろうかと考えることもあった。また、今でも練習はうまくいかずイライラしていると音に現れてしまい、お母さんに毎回怒られヴァイオリンが嫌になり、いつもすぐには立ち直れない。そんなときにお母さんの作ってくれた美味しいご飯を食べると少し気持ちが落ち着くし、パワーがみなぎってくる。そのような方法で毎日の辛い練習を乗り越えている。

でも嬉しかったし、もっと変わりたいとも思った。夏休みが明け、しだいに部活に戻りたいと思うようになった。しかし部活をやめた私は、部活に戻れるのかと思い顧問の先生に聞きに行った。すると先生は、「それは、大丈夫。休部にしてあるから」と言った。とても驚いた。私は、「やめます」と言ったのに、退部じゃなくて休部になっていた。私は、先生の優しさを胸に再び部活に励んだ。私は周りとの差を埋めるため、人一倍努力した。そして二年生の一学期、数学のテストが四十二点上がり、九十二点を取った。日々の努力が報われたと思いとても嬉しかった。それから私は努力を続け、テストの点数もどんどん上がり、部活では、レギュラーになることができた。新たな挑戦として生徒会に入った。保健委員長として、努力をし、体育会を成功させることができた。そんなある日、父から「お前は努力の天才だな」と言われ、今までの

ヴァイオリンに熱く情熱を注いでいるぶんマイナスの感情もより強くなるが、今までヴァイオリンをやめようと思ったことはない。そう感じることはできるのは、4年生の頃から発表会で演奏を聞いた人が

「すごく良かったよ。次回の演奏も楽しみにしているよ。」と褒めてくれるようになったのが一番の支えなのかもしれない。日頃から自分の時間を削って辛い練習や努力をしてきているのでそれが評価されていると思うと今まで頑張ってきたてよかったなど他のものでは味わえない特別な幸せを感じることができ

私は六年生から自分のヴァイオリンの世界を広げるために福岡ジュニアオーケストラに入団している。オーケストラではパート分けや選抜メンバーを決める一人弾きというものがある。私は七月にも来年に行われる定期演奏会に向けての一人弾きがあった。一人弾きの後、先生は私に

頑張りが認められたようで思わず泣いた。私は努力をすることで、今までの人生を変えることができた。なので私は努力をすることが大好きで仕方ないので

RKB毎日放送賞

ぼくが大好きな家ぞく

●博多小学校3年

オオバ
大庭 永大

ぼくは、四人家ぞくです。ぼくのほかにお兄ちゃんとお母さんとお父さんがいます。いつも遊んでくれるお兄ちゃんが好きです。いっしょに遊んでいたら楽しくなります。お兄ちゃんがいてぼくはとってもうれしいです。毎日いっしょにあそびたいと思います。そしてこの家ぞくに生まれてきてよかったと思います。ぼくのお母さんは、いつもお

努力は反比例しない

●志賀中学校3年

ハラガ
原賀 由愛

二年生の一学期、私は努力の楽しさを知った。私は中学一年生になって、女子ソフトテニス部に入部した。理由は、友達か「入りたい」と言ったからである。中学一年生の私は何もかも適当であった。もちろん部活もそうだし、勉強面でも努力とは無縁の関係だった。そんなある日、部活で嫌なことが起きた。その出来事をきっかけに私は、部活を辞めたいと思うようになった。そして数日後、私は部活をやめた。とてもスツキリした、うれしかった、もう嫌な思いはしなくていいと思った。毎日授業が終り家に帰ってお菓子を食べながらアニメを見ていた。その時の私は、とても幸せだった。しかしそんな私を見ていた父と母が「こんな生活を送るために、部活をやめたのか」「今のままで本当にいいのか」そう私

いしいごはんを作ってくれるのが大好きです。お母さんにはかんしやをこめていつもありがとうと心の中で思っています。いつもがんばってくれてるところがよいと思います。お父さんは、ぼくたちに毎日面白いことをしてくれてうれしいです。お父さんは山がさもがんばっているけれど面白いこともうまいです。お父さんがつくるごはんもおいしくてうれしかったので心の中でおいしいなと思いました。そんなこの家ぞくに生まれてよかったと思いました。

7才の肉食きよりゆりゅう梨々花

●東光小学校5年

セイミ
清見 一翔

ぼくには、かわいい7才の妹がいる。けど、ほんの少しいやらしいところがある。それは、焼き肉のとき。家族みんなでお肉パーティーをする。お肉が焼きたかった、

その時10こあったのに、たった4こになってしまったんだ。その6この肉をすべてとったのは、7才の肉食きよりゆりゅう梨々花であった。「めっちゃ美味い！」そういつてペロリと食べつくしてしまっただの

「まったく。くいしんぼうな妹だな。次、焼き上がるまでまつか。」

そして、10分後。肉が焼き上がった。なんとか肉を取ることができた。パクパク。モグモグ。ごくん。美味しい！今まで待ったかいがあったと今あらためて思った。

それから数日後。夏休みに入り、妹と2人で新幹線に乗り、広島のおじいちゃんとおばあちゃんの家に来た。

さらに数日後、お母さんもお父さんも広島に来た。そしてついにこの時がきた！BBQの日が！たくさん焼いて、たくさん食べまくるぞ！BBQの準備ができた。さあ！焼くぞ！「ジュー」と焼けていくいい音といい香りが

ただよい、ますますおながへってきた。

5分後。きれいな茶色に焼き上がってる。ここがしょうぶの時！肉を1まいでも多くとれるようにいちはやく手をうごかさないと！そう思ったがもうおそかった。肉はもう1まいも残っていなかった。そう。もう、7才の肉食きょうりゅう梨々花に取られていたのだ。けれど、おじいちゃんがすぐに焼き始めてくれた！次こそは！

そして4分後。こんがり焼き上がってる。「やった！」肉を取ることができた！いい香りがたまらない！焼き肉のタレにつけて「いっただっきまーす！」美味しい！ほったが落ちちやいそうなほど美味しかった。他にも焼き上がった野菜を食べた。お米もたくさんおかわりした。今日はさいこうの1日だったな！

B B Qがかわり、かたづけに入った。そしたら、妹が、「もつとお肉をいっぱい食べたかったな」と言っている。お

れでも、さすがにもう食べきれない。妹はすごいなと思った。

かたづけもおわり、次はデザートの時間！いちごやキウイなど、いろいろな果物をよくいしてくれた！デザートはぼくはべつばらなんだよね！パクパク！みずみずしくて美味い！そう思い、おふろに入ってた。

次の日、今日は家に帰る日。その前にはらごしらえをしてから帰る。昼ご飯はモスバーガーだ。しっかり食べて帰ろう！
美味しかった！これでしっかり帰れるぞ！そう思って家に帰りました。
これからも7才の肉食きょうりゅう梨々花を見守っていきたいと思います。

サッカーが教えてくれたこと

●香椎第1中学校1年

クニヨシ
有 志

僕が今、夢中になっている

ことはサッカーです。サッカーはただのスポーツではなく、僕の夢や努力、悔しさや喜びが詰まった大切な存在です。サッカーをしているときは時間を忘れるほど集中できて、どんなきつい練習も楽しめます。

サッカーを始めたのは小学生になってからです。千早SCというチームに入り、最初はルールもよくわからず、ただボールを追いかけていただけでしたが、仲間と一緒に練習、試合を重ねるうちにサッカーがどんどん好きになっていきました。気がついたら、僕の心の中心にサッカーがありました。

そして、千早SCではキャプテンを任せられました。キャプテンになったばかりのころは、どうやってチームをひっぱればいいか分からず、うまくいかないこともたくさんありました。でも、練習中に声を出したり、チームメイトのプレーをほめたりすることで少しずつ自分にできることを

見つけていき、また、この経験から、自分だけでなく仲間のことを考える大切さを学びました。

そんな中で特に思い出に残っているのが、JCOM九州杯というトレセンの大会です。僕は東区トレセンとして出場して、すごく上手な選手たちと戦って、どの試合も簡単でなかったけど見事優勝することができました。さらに、なんとこの大会のMVPに選ばれたのです。名前を呼ばれた瞬間、本当にうれしくて今までの努力が報われたと感じました。

僕の夢は、プロサッカー選手になることです。ただサッカーがうまいだけでは、夢は叶いません。だから今は、技術だけでなく、体づくりやメンタル面も意識して練習しています。強い選手に負けない心。試合で実力を出す集中力。最後まで走り続ける体力など、どれもプロを目指すうえで大事な力だと思います。

これまでサッカーを通じ

まるで星空の様にきらめく光に、思わず息を吞みました。展望台の天井にも、点々と光が灯っていました。

私は日本とその美しい夜景が大好きです。

あの夏のお祭り

●老司中学校3年

アライ
小 晴

「ラムネ飲みたい」

昔、おばちゃんにそう言ってお祭りに行ったことがある。あれはまだ小学5年生くらいのときだったと思う。

夏休みに毎年、町内の公民館でやる小さなお祭り。夜になるとちようちゃんが灯って、焼きそばとかかき氷のにおいがして、私はなんとなくその空気が好きだった。でも、一番楽しみだったのは、いつも一緒におばあちゃんで行けることだった。

私は、毎回最初にラムネを買っていて、おばあちゃん

て、僕は努力をすること、仲間を信じること、あきらめずに前に進み続けることを学びました。サッカーが教えてくれたことは、これからの人生でも、必ず役に立つと思います。僕はこれからもサッカーとともに成長し、夢に向かって進んでいきたいです。

君が大好きなこと

●長尾中学校2年

ウエン
雨 菲

私は日本が好きです。ここでは中国とは異なる景色や特徴を体験することができます。

この夏、母は私を福岡の有名な観光スポットに連れて行ってくれました。また、地下鉄ファミリー1日乗車券も試させてくれました。その日は、家で地下鉄ファミリー1日乗車券の買い方を調べてから、電車に乗って博多駅まで行きました。駅で、私は窓口の人に日本語で、1000円

ライラしてしまう。羨ましいのかもしれない。そんな自分がいやで、涙が出そうになる。おばあちゃんと一緒にいたときは、こんな気持ちにはならなかったのに。

私の好きなものは、おばあちゃんで行ったあの夏のお祭り。静かな思い出けど、きちんとにぎやかで、心があたかかった。今はもう一緒に行けないけど、あの時間はずっと私の心に残っている。だから、いつかきちんと「会いに行くよ。」って言えるようになりたい。怖いけど、それでもきつと、行かなきゃいけないと思う。

の地下鉄ファミリー1日乗車券を購入したいと伝えました。他の人と話す前に日本語を暗記していたにもかかわらず、話すときは少し緊張しましたが、幸いなことに最終的にはチケットを購入することができました。

最初の目的地は櫛田神社でした。到着した時は既にお昼でした。家族と290円のラーメンを食べました。食後、家族と一緒に櫛田神社へお参りをしました。神社の中は非常に神聖な雰囲気で、多くの人がこれからの幸運を祈願していました。お土産を買う人や、ひざまづいて参拝する人もいました。神社には、夫婦円満の神様や、幸運を象徴する神様など、たくさん日本の神様の彫刻がありました。

櫛田神社を参拝したら、もう午後になってしまいました。福岡タワーの夜景を見に行く予定でしたが、福岡タワーまでの距離が遠かったのでそう言ってたら17時でした。地下鉄の駅から出るとす

わたしの大好きな家ぞく

●東光小学校2年

牧瀬 結菜

わたしの大好きなおかあさん。いつもみんなのために、家のそうじをしてくれています。

大好きなお姉ちゃん。絵がじょうずです。

大好きなおとうさん。ぺんきょうを教えてくださいます。

大好きな犬のコロスケ。

そして家ぞく五人のくらしはいつも、たのしくてにぎやかなせいかつでしあわせです。またわたしが生まれかわってもこんなしあわせな家ぞくに生まれたいです。

わたしは家ぞくのことをえいえんにわすれません。100年200年たつてもずっとずっとわすれません。そして200年300年たつてもこんな家ぞくがいいです。わたしはせかい一の家ぞく

私の好きなこと

●志賀中学校2年

阿野 悠花

私が好きなことは、KーPOPです。今は1組ぐらいのグループを推しています。

そんなKーPOPの魅力は、ダンスと歌と曲の歌詞です。ダンスは、各グループのコンセプトや曲のリズムとメロディに合わせて踊るところで、歌は、メンバーみんな上手いし、歌声がきれいなところで、歌詞は、作詞・作曲も自分たちでやるグループもあり、元気づけられて、励まされる歌詞です。

けれども、私の周りにはKーPOPが好きな人は、あまりいません。周りの人は、JーPOPのアーティストかVチューバーなどいろいろいます。

好きなことが違うので、話についていけなかったり、話の内容が分からなかったりすることがたまにあります。それで私が好きなKーPOPを

が大好きです。

わたしが赤ちゃんのときずっと大じにしてくれたこと。もうおぼえていないけどすぐうれしかったです。

こんなにじょうずにわたしを生んでくれたことがうれしいです。

たのしい。しあわせ。

こんな家ぞくが一ばん大好きです。

これからもこんな家ぞくでいたいです。

しあわせです。

君が大好きなこと

●和白丘中学校1年

櫻井 朝日

僕は毎年夏休みに楽しみにしていることがあります。それは毎年夏休みに古賀市の五所八幡宮で行われる「わごし祭り」というお祭りです。お店の数はあまり多くないですがたくさんの方が訪れていました。その祭りで僕はおじい

ちゃんといっしょに金魚すくいのお店を覗きました。僕のおじいちゃんは農家をしていて社会の役に立つ情報を色々教えてくれます。祭りでも金魚すくいで遊んでくれた人たちに上手なすくい方を教えていました。

僕はおじいちゃんといっしょに祭りの準備をしました。僕は金魚すくい金魚は自分でつかまえるのかと思っていました。しかし違いました。金魚やめだかを売っている店で金魚を買っていました。約二百匹の金魚を車にのせ水そうへ放ち水を入れていました。僕はおじいちゃんといっしょに祭りの手伝いをしてとても楽しかったです。なぜなら祭りに来てくれたお客さんがとても楽しそうに金魚をすくっていたからです。祭りの準備は熱いしきつかったけどお客さんがたくさん来てくれてうれしかったです。

僕はお客さんに楽しんでもらえるようにおじいちゃんと同じように優しくアドバイス

がさらに深まったり、クラスのみなと協力して一つになれると思います。こうして考えると、「お互いの好きなことを認め合う。」ということは、とても大切で、良いことがたくさんあるんだな、と思いました。

誰もが自信を持ち、胸を張って、「私はこれが好き。」と言えるような社会にしていきたいです。だから私も「私はKーPOPが好き。」と自信を持って、胸を張って言えるように日々努力していきたいです。

大人になっても、「認め合う。」ということはとても大切なので、忘れないようにしたいです。

大好きなこと

●老司中学校3年

古賀 菜乃花

私の大好きなことは、家族みんなで夕食を食べることで

をしました。小さい子供も多かったのなるべく分かりやすいように心がけました。すると自分ですくってみるととてもとりやすかったです。説明しているうちに金魚すくいのコツを少し学び、あこがれのおじいちゃんに少し近づけたような気がしました。

おじいちゃんが休けいに入り仲間達とビールを楽しそうに飲んでいるとき僕はある疑問がうかびました。なぜこんな暑いのに外で祭りをするのだろうと思ひ少し考えてみました。神社には神様がいて色々な願いを叶えてくれます。だからみんなで集まって話をしたり好きなものを食べたりして楽しくすごしたいんだなと思いました。暑い中神様もみんなが楽しそうに遊んでいるすがたを見て神様も楽しかっただろうなと思いました。

また神社で祭りをするもう一つの意味が思いつきました。それは地域のひとのふれあいです。夏休みはみんなクーラーの効いたすずしい部

す。家族で過ごす夕食の時間は私にとって幸せな時間です。

私の家では夕食の時間はただ食事をするだけでなく、今日あった出来事などを話すコミュニケーションをとる時間です。弟は学校でおきた面白い話など、お母さんは会社での話などを話してくれます。特に印象に残っている話は、弟がしてくれた「将来の夢」についての話です。私の弟は小学五年生で野球チームに入っていて毎日練習に励んでいます。

あるとき弟が「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行きただひとつの道」というイチローさんの名言を教えてくださいました。そして弟は、「僕は今まで試合でヒットや、ホームランを打つことばかり気にしていたけれど、イチローさんの言うように小さいことを積み重ねた先に道があるって分かったんだ。」と言いました。それに続けて弟は、「だから僕は、ヒットを打つことばかり気に

屋で過ごしている人も多いと思います。だから屋外で祭りをやることによって久しぶりに友達にあつて楽しい時間を過ごすことができるのが祭りのいいところだと思いました。とても良い経験をする事ができてとてもうれしいです。このように祭りには様々な良いところがありました。祭りの準備の仕方や片付け方、お客さんへの接客などの社会の役に立つことを学べる祭りがとてもすばらしいと思いました。毎年祭りが続いているのでこれからもおじいちゃんといっしょにたくさんのかことを学んで自分の人生に生かしていけるようにがんばります。そしてこれから来てくれるお客さんにどう接客すればいいかを自分で考え行動できるように中学生になっていきたいです。

するんじゃないくて、練習の球拾いや、ランニングに力を入れて僕の将来の夢であるイチロー選手のような立派なプロ野球選手になってみせる。」と言いました。私は、弟が成長している姿にとっても感動し、今まで以上に弟をサポートして、弟の夢の実現に向けて応援しようと思いました。そして私も進路実現に向け、受験勉強を頑張っていこうと決意しました。

このような夕食の時間は私にとって自分を見つめ直すことができ、成長できる時間でもあります。

私はこの唯一無二のかけがえのない夕食の時間が大好きです。学校や部活で疲れて帰ってきても夕食のときの家族の会話や笑顔を見ると疲れが吹き飛びます。私にとって家族の存在は私に元気を与えてくれる元気の源です。そして、夕食の時間を通して、お互いの近況や悩みを分かち合うことで家族の絆が深まります。絆が深まることで、どん

NPO博多の風賞

だいすきなこと

●板付小学校1年

キタヤマ
北山 湊士

ぼくは、ドリルでペンきょうをするのが好きです。りゆうはあたまでかんがえることがたのしいからです。

ぼくは、ほんをよむことが好きです。とくにドラえもんのがくしゅうシリーズが大好きです。りゆうはおもしろしがくしゅうにもなつてかしこくなるからです。

ぼくは、ゆうえんちが大好きです。メリーゴーランドは、うまなどにのれてたのしいからです。かんらんしゃは、たかいところにいられてスリルまんてんだからです。

ぼくは、かわのたきでながれるのが好きです。りゆうは、はやくてスリルまんてんだからです。かわはみずてっぽうであそべます。

のため私はなに不自由なく中学校生活を楽しんでいた。そのときは。入学して半年ほどたつたころ、私は違和感を感じはじめた。ろう下を通るたび、別のクラスの人がこちらを見て、笑っている。気のせいかもしれない。はじめはそう思っていた。けれど増えていく視線。大きくなる笑い声。私はふと小学校のころを思い出した。どうしてそのことを忘れていたのだろう。さんざん言われてきたあの言葉。中学校生活が楽しすぎて、何もかんがえなくていいこの環境で、私は忘れてしまっていたのだろう。そう考えるとなんだか頭がいたくなってきた。いやになつて教室に急いでもどつた。授業も集中して受けられず、ずっとさっきの笑い声が脳にかたりかけるようにきこえてくるようだった。そんな姿に気づいたのか、私の仲の良い友達が「大丈夫？」と聞いてきた。私はこのこと言うかまよつた。言ったらどうなるだろう。笑つてきた人

ボールを追つた。

6月末、中総体東区大会。予選は第4シードのライバルWO中と一緒にリーグに。両チームとも順当に勝ち続け、勝つた方が決勝トーナメントで有利な位置に入れる1位通過。2ペアが戦い1勝1敗で、私たちのペアに回つてきた。ファイナルゲームにもつれ込む大接戦だったが、負けてしまった。思い返せば、この負けが、大きな、大きな1敗だった。

決勝トーナメントは2位通過。初戦はW中。「負ける相手じゃない」。私もみんなもそう思っていた。この試合も1勝1敗で回つてきた。試合前、相手のペアを再度確認し「負ける相手じゃない」と思った。この日は猛暑日だった。

第1ゲーム序盤、まさかのことが起きた。私とペアを組む選手が熱中症で左脚がつつてしまったのだ。10分間のメディカルタイムアウトを取つた。彼女は「少し治つたからやる。ごめん、がんばろう」といった。そして再びコー

なことでも「家族がいてくれるから頑張ろう。」という気持ちになり乗り越えられると思います。

私は今まで、夕食の時間を当たり前のように過ごしていた、そんなに深く考えていなかったけれど、この作文を通して、夕食の時間は、私にとって日々の元気の源で、かけがえない私の宝物なんだと気づくことができました。

これから私は、毎日美味しいご飯を作ってくれるお母さんに感謝し、かけがえのない私の宝物である夕食の時間を大切にしていきたいと思います。

青春ソフトテニス

●志賀中学校3年

モリ
森 悠

全力で「青春」した。私はソフトテニスが好きだ。試合に勝つて笑い、負けて泣いた。練習後はたわいもないおしゃべりをした。時にはけんかも

ぼくは、じいじばあばのところにいくのが好きです。じいじばあばのところは、いつもすんでいるいえじゃないですごくたのしいからです。

2かいだてのおうちだし、いつもすんでいるいえとはちがうおもちゃがあるからです。ぼくには好きなことがたくさんあつてたのしい。ぼくは、あたまでかんがえたり、いつもとちがつてスリルまんてんなのが好きです。

次に、なぜダンスの先生になりたいかを、説明します。私は、一年生のころからダンスを習っています。ダンスを教えてくれる先生は、とても

私の夢

●東光小学校5年

ワタナベ
渡辺 美月

私のかなえたい夢は、よくばりだけど二つあります。それは、保育士の資格をとって保育士さんになることと、ダンスの先生になることです。その訳を今から説明します。

まず一つ目の保育士さんに、なぜなりたいかというと、私には十才としがはなれてい

「まずはきちんと礼ぎから。」

だから私もつねに「ありがとう」と伝えていきたいです。そして絶対ダンスの先生にもなりたいたとおもいます。

でもどんなにがんばつても、もしかしたら夢をかなえる事が出来ないかもしれません。二つの夢をかなえることは、とてもむずかしいとおもいます。しかし、これから先の未来はまだだれにも分かりません。私がいつしうけんめいがんばればなれると私は信じています。そのためにこれからサポートをしてくれるかぞくにかんしゃしながら、えがおをわすれずに、毎日ダンスのれんしゅうをがんばったり、おとうどのお世話をしたいと思います。

私

●長尾中学校2年

ババ
馬場 美優

私の好きなこと。それは自分だ。私は私が大好きだ。そんなことを言っているとよくばかにされる。それでも私は私が大好きだ。

小学校の頃、私は自分のことが嫌いだった。よく足が短いだとか、声が高いだとか言われた。そんなことを言われるうちに自分はふつうじゃないと思いはじめた。それはしだいにコンプレックスとなり、私自身の心をむしばみだした。私は周りとはちがう。おかしいんだ。そう、ずっと思っていた。そう思えば思うほど私は一人ぼつちな気がして苦しかった。そんな悩みもありながら小学校生活をおくっていた。

数年後、私は中学生になった。中学生になつても悩みはかかえたままだった。小学校の頃さんざん言ってきた人は中学校になつてはなれた。そ

たちと一緒にバカにしてくるのかな。それとも…。迷った結果、私は話してみることにした。「あのね、実は…」すべてを話した。小学校のころ言われてきたこと。それがしだいにコンプレックスとなったこと。そしてそんな自分が嫌だ。ということ。その友達

はしずかにきいてくれた。そして、「私はみゆうちゃん足の短いのも、声が高いのもかわいくていいじゃん！」と言ってくれた。私はその瞬間目を丸くしただろう。そんなことを言ってくれるなんて思わなかったからだ。

それから言うもの私は周りの声をきにしなくなった。声が高くていい。足が短くていい。それは自分の個性だ。世の中には十人十色という言葉があるほどいろいろな人で満ちている。気にすることなどない。そう思えるようになった。

もう一度いう。私は今の自分が好きだ。他人の声にうごかされず真つすぐとつらぬく

ている課や部に入らなければならない。

そこで僕が立てた具体的な目標として、まず、僕の住んでいる学区で一番偏差値の高い、公立の進学校に進み、九州大学の工学部Ⅲ群に入り、大学二年生から航空宇宙学部に入り、大学を卒業したら大学院に進んで修士号を取得し、博士課程に進み、博士号の取得を目指します。そしてJAXAか、トヨタの宇宙開発部に入社し、ロケット設計士として働きたいと思う。

そのために、今はまずたくさん勉強をして学力をつけることで、どんな状況にも対応できるようにしておきたいです。また、宇宙開発をしていく上で多少なりとも、体力は必要なので今のうちにしっかりと体力をつけておきたいです。そして、宇宙開発はチームで進めていくのでチームワークやコミュニケーションを大事にしていきたい。

これからは宇宙開発がどんどん発展し、いずれ日本でも

自分が好きだ。私のこの気持ちはこれからも変わらないだろう。

私の好きな方言

●老司中学校3年

カワグチ 川口 英恵

私の好きな方言は、博多弁です。博多弁は福岡の博多を中心に使われています。博多弁は話してみると楽しく、元氣になつてくるように感じます。

私が博多弁を意識し始めたのは祖父が言っていた言葉でした。祖父はよく祖母に対して「くばってんくさ」と言います。いつもの私なら何も気に留めませんでした。その日はなぜか無性に氣になっていました。どういう意味なのだろうとわくわくしながら自分のスマートフォンで調べてみました。すると、「くばってんくさ」は「だけどね」や「けれどね」という意味と書かれており、何気に氣になった

「くばってんくさ」の意味を知りました。自分が知らなかった博多弁の意味を知り、次第と自分が日常で使っている博多弁を意識するようになっていきました。意識してみると、私達が普段から使っている「あーね」も博多弁であることを知り、すごく驚きました。また、関西の従妹にあつた際には、「博多弁うつりやすいわ。」と言われたり、「なに言うてるん。」と尋ねられ、自分がいつも使っている方言が他の地域や県からは、とても珍しく、新鮮だということが分かつてきました。

私は、どうやって方言が生まれたのが、調べていくうちに氣になってきました。日本の方言は独自の発展をしていることが調べてみて分かり、各地域固有の自然環境、文化などが影響しているかを知りました。また九州方言だけでも三つのグループに分けられ北九州の一部で話されている豊日方言や福岡、熊本、佐賀、長崎などで話されてあ

る肥筑方言、鹿児島、宮崎、沖縄などで話されている薩隅方言があり、九州の方言が単一ではなく地域によって異なる特徴を持つていることを示していることが分かりました。

私は一番好きな博多弁をこれから大切にしていき、博多弁以外のさまざまな方言などにもふれていきたいです。あまり分かつていない方言なども多いと思うので、どんな調べていろんな意味の方言を調べていきたいです。また、自分が使える方言を大切に使用していきたいです。

好きなことを将来の自分へ

●志賀中学校3年

アンノ 阿武 岳杜

僕が好きなことは宇宙のことだ。

宇宙のことについて好きだと思ふようになったきっかけは、小学1年生くらいの頃に誕生日プレゼントにもらった

宇宙の図鑑をみたことだ。この図鑑には壮大な宇宙についての仕組みや宇宙開発などについて書いてあり、僕は壮大な宇宙に対し感動した。

また、宇宙開発で僕もいつか宇宙に行きたいと思うようになっていった。

そのため、僕は将来宇宙に関係する職につきたいと思いました。

しかし、だんだんと宇宙のことについて調べていくと、宇宙飛行士になるためには体力がたくさん必要であることが分かり、僕は宇宙飛行士よりも宇宙開発の方に興味があつたので、宇宙開発ができるロケット設計士を目指すために努力することに決めた。

ロケット設計士になるためにはまず、高校が高専に行つて短大か大学に行つて、できれば修士号か博士号を取り、そこから、国が支援金などを出しているJAXAに入社するか、トヨタや植松電気などの、宇宙開発をしている民間企業に入社し、宇宙開発をし

告知

第23回

追い山笠コース探訪

令和8年6月7日(日)開催(予定)

恒例の「追い山笠コース探訪」が来年も6月に開催されます。長法被に身を包んだ博多の風の語り部と一緒に、追い山笠のコースを廻りませんか？博多祇園山笠の歴史や舁き手ならではの迫力ある解説、沢山魅力が詰まった博多の歴史や文化など、ここでしか聞けない話が飛び出しますよ！

募集案内は、GW後に新聞紙上、市政便り、ホームページ等で告知させていただきます。ご家族・ご友人・お子様と一緒に参加されませんか？山笠に興味がある方、参加してみたい方、団体での参加も大歓迎です。多くの方のご参加を心よりお待ちしております！



第22回の模様(令和7年6月)

来風人



幹事紹介
上野 翔さん(30歳)
 NPO博多の風 楽文コンテスト担当
 ■職業:小学校教諭
 ■土居流 川口町

■博多祇園山笠との出会い

私と山笠の出会い、当NPO法人博多の風が行っている「追い山笠コース探訪」に家族で参加したことがきっかけでした。もともと大庭宗一理事長のラジオを毎日聴くのが日課で、その中でこのイベントの話聞き、「ぜひ参加してみたい」と家族に話したのが始まりです。

その探訪をきっかけに、父が土居流川口町に参加するようになり、私も翌年、中学2年生の頃から山笠に参加しました。以来、今年で17年。気づけば人生の半分以上を山笠とともに過ごしており、今では生活の一部になっていきます。振り返ると、山笠は他に代え難い、自分の人生における大切な居場所となっています。SNSの普及で、人と直

接会って話す機会が減っている今だからこそ、土居流川口町や博多の風の存在は特別です。ここには、親や学校以外で本気で向き合い、成長を見守ってくれる人たちがいます。町は家族のようなもので、良いことがあれば一緒に喜び、間違えば真剣に叱ってくれる。社会人としての自分があるのは、そうした人々のおかげだと思っています。

■楽文コンテストへの思い

博多の風では、毎年夏休みに「楽文コンテスト」を開催しています。「君の好きなこと・大好きなこと」をテーマに、小中学生からたくさん作品を募集しています。私はこの活動の担当幹事として、運営に携わっています。

どの作品から書き手の思いがまっすぐに伝わってきて、笑いあり、涙あり。大人もハッとさせられるような内容が多く、毎年読むのがとても楽しみです。このコンテストが、子どもたちにとって「自分の思

いを言葉で表現する」きっかけになっていると感じます。活動を続ける中で、その意義とやりがい強く実感しています。

■教師として、そして山笠の担い手として

小学校で教員をしています。福岡県の4年生の社会科では「地域で受け継がれたもの」という単元で博多祇園山笠を学びます。授業を通して、子どもたちが山笠をより身近に感じ、地域への関心を深めてくれたら嬉しいです。

父と同じく、昨年から赤手拭を拝命しました。町を引っ張る立場として責任を感じながら、伝統を守ることの重みを実感しています。いつか自分に息子ができたら、父と私、そして息子の三代で山笠を昇るのが夢です。変わりゆく時代の中でも、変えてはならないものを大切にしながら、子どもたちが地域を誇りに思えるふるさとを残していきたいと思っています。

報告

令和7年度 NPO博多の風 総会

令和7年2月15日(土)開催

各担当理事および幹事の出席のもと、野中理事の司会で開催されました。「令和6年度事業報告・決算・監査報告」および「令和7年度事業計画・予算審議」、「役員人事」について審議を行い、全ての議案について承認されました。



■理事長より

令和6年度は第42回NPO博多の風フォーラムを開催し、戸谷氏(福岡県交通安全協会専務理事)に講演いただいた。令和7年度は「楽文コンテスト」と「追い山笠コース探訪」に注力する。皆さんと力を合わせ、これからも地域に貢献できるNPO法人にしていきたいと思う。なお一層の協力をお願いしたい。

令和7年度体制

◎理事長	大庭 宗一
◎副理事長	因幡 敏幸 戸谷 弘一
◎理事	松本 昭久 野中 雅治 村岡 昌哉 中川 原謙二 山口 覚弘 森 義人 大庭 大輔
◎監事	金子 俊明 板谷 益男 後郷 光信
◎顧問	太田 勇之助 大庭 信雄

大庭宗一の大人気エッセイ

シリーズ第11弾

「明日への一言。11」

第11弾は明日につながる
 44の熱いメッセージがいっぱい
 詰まったエッセイ集です



人気シリーズ好評発売中!
 定価600円(税込み)
 HPからも購入できます。

編集後記

今号も最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。今年も地域、参加者の皆様の温かいご理解とご協力のもと、「追い山笠コース探訪」や「楽文コンテスト」など、博多に根ざした活動を継続することができました。日々の活動にご支援くださる企業・団体の皆さま、賛助会員の皆さま、そして地域に住む多くの方々に、心より感謝申し上げます。

恒例の「楽文コンテスト」では、子どもたちが自分の言葉で感じたこと、考えたことをまっすぐに表現してくれました。どの作品からも、家族や友人、地域への思いやり、挑戦する気持ち、成長の瞬間が伝わってきます。成長の瞬間を言葉でつづるその姿勢に、読む私たち大人のほうが勇気づけられる思いがしました。

博多のまちは、歴史と人情が息づく場所です。伝統を受け継ぎながら、新しい世代が未来を担っていく。そのつながりの輪の中に、私たち「NPO博多の風」が少しでもお役に立てれば幸いです。

引き続き、皆さまのご支援とご参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(今長谷 創太)

NPO博多の風 賛助会員募集中

「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お近くの博多の風の幹事が下記までご連絡ください。

- 一般会員 一口 1,000円(年間)
- 特別・法人会員 一口 10,000円(年間)

(一口以上、何口でもお申込みいただけます。)

お問合せ先
 「NPO博多の風」
 広報企画(担当:山口)

E-mail
info@hakatanokaze.jp
 FAX 092-263-7188

